



記念講演

東京福祉大学大学院教授
中京大学名誉教授
経済学博士

水谷 研治氏

日本経済のゆくえ

●今の買気は10年前と同じ等

「愛知は景気が良い」とよく言われていますが、実情としては必ずしもすべて良い部分だけではありません。今は物価上昇が問題視されており、所得が上がらないため消費も停滞しています。そのためモノが売れないという状況を引き起こし、景気が悪化しているように感じられます。実際には戦後最長の景気といわれていますが10年前に戻っただけと私は考えています。

日本のGDPは40年以上拡大し続けました。その間に景気が悪い時期でも4%を切ることはありませんでした。しかし今の経済成長は1%と極めて低い数字です。今の状態が異常に悪いのであれば、いずれ正常に向かう働きが出てきますが、本当にそうでしょうか？

日本では国民の要求を受けて、減税や公共投資を続けてきました。このツケが累積し今や550兆円という膨大な赤字にまで膨れ上がりました。国が赤字になると、インフレになるのが一般的ですが、日本はデフレになっています。それは日本にはまだ生産力があり、良質の製品が世界で購入されているからです。またアメリカの貿易赤字も影響しています。

●アメリカの後を追う日本

アメリカは第二次世界大戦後、3600億ドルの貿易黒字を上げ、消費大国になりました。やがて自国でモノ

を生産することをやめ、他国からモノを購入するようになり貿易赤字がどんどん膨らんでいきました。影響力の大きさからアメリカの赤字が増えても世界はお金を貸していましたが、その影響力も次第に小さくなってきています。日本経済が今日あるのは、アメリカがモノを買ってくれたことと、日本政府の経済政策によるものです。日本ではモノ余りの状態が40年も続いています。アメリカは60年続きました。しかし日本も産業の空洞化が進み、モノづくりをやめる傾向に向かっています。これはアメリカの後追いになっています。ただ、今

は金利が低いので大きな負担にならず、国債が売れています。一転してインフレ体質になると大変な事態に陥ります。

●将来への人材育成が急務

日本経済が抱える多額の負債を減らし、収支バランスのとれた経済に立て直すためには、増税に頼るしかありません。現段階では消費税を45%に引き上げないと正常には戻せない試算をしています。今のままにしておく、悪化は進みます。もちろん国民が受け入れるかどうかは問題ですが、それだけ日本経済は大変な事態であるというわけです。

今は何でも手に入る時代で、自分のことしか考えない人が多くなっています。それだけに今後は国の未来をきちんと考え、将来を担う人材を育てることが急務であり、教育の在り方も考えていく必要があると思います。



家庭生活の充実と学校、地域社会との連携を深めて

第58回全国高等学校PTA連合会大会愛知大会を、かくも盛大に開催できますことに、心から厚く御礼申し上げます。

本連合会は、高校生を持つ保護者として、自らの家庭生活の充実を図り、学校、地域社会との連携を深めて青少年の健全育成を支援すべく様々な事業に取り組んでいます。昨年度は「デジタル社会における子どもの健全育成」の研究調査、「高校生と保護者の連携に関する意識調査」等を実施しました。今年度は「親は子どもに何を伝えていくか。どう伝えているか。」の調査研究を実施します。

また、文部科学省の委託事業として本大会が認められ、「世界の親子の絆意識」をテーマに、9地区大会でも研修が行われています。

今後とも、PTA活動にご支援くださいますようお願い申し上げます。



会長
たか しま
高橋 正夫

地域社会こそ生きた教育の場

全国の高等学校PTA会員の皆さま、ようこそ愛知にお越しいただきました。本県会員一同、心より歓迎申し上げます。

愛知大会のメインテーマは「絆」です。本大会が、地域社会こそが子どもたちにとって生きた教育の場であると、今一度認識を新たにし、子どもたちの未来のために、家庭と地域社会の果たすべき役割を考える機会になることを強く望みます。

また、子どもたちにとって家庭こそが心の居場所であると実感できる環境づくりをめざして、全国の会員の皆さまと「家族の絆」ということばの持つ重みをしっかりと受けとめられる大会になることを念願します。

最後になりましたが、全国各地から多数の会員の方々にご参加いただき、心から感謝申し上げます。



実行委員長
あ い さ つ
愛知県公立高等学校PTA連合会
会長
関 鋼太郎